

平成27年度 第2回名護市総合教育会議 議事録

日 時	平成27年10月28日(水) 16:00~17:15
場 所	庁議室
出席者	稲嶺進市長 照屋厚委員長 大城千代子委員長職務代行者 太田一郎委員 宮城博委員 座間味法子教育長
事務局	中本正泰教育次長 荻堂盛邦(教)総務課長 宮里琢也(教)総務課総務係長 當山貴将(教)総務課総務係主事
関係部局	石川達義総務部長 山里将雄企画部部長
関係者 又は 学識経験者	なし

発言者	内容
稲嶺市長	<p>皆さんこんにちは。本日はお集まりいただき大変ありがとうございます。今回で2回目の開催となりますこの総合教育会議。これは法律の改正によって設置が義務付けられたというものでございます。前回は大綱について協議をいたしました。今回は次年度に向けて教育の振興を図るために重点的に講ずべき施策について協議を行う予定になっています。</p> <p>会議の進行についてはレジュメに沿って行います。構成委員の皆さんは前回と同じです。特に挨拶とか気にすることはないと思いますが、その間第1回の会議以降、それぞれの皆さんが現場で活動する中で気が付いたこと、あるいはまたいろいろと考えもおありなのかなと思います。ここで改めてまたお一人お一人話を伺いながら進めたいと思いますのでよろしくお願いします。</p>
全員	宜しく申し上げます。
照屋委員長	前回と同じメンバーで第1回目から始まりましたように、1回目はなんとなくこういうものかなという風に始めたことですから、2回目はまた充実したような関わりの中で教育委員会議が出来ればと思っております。宜しく申し上げます。
大城委員長職務代行者	大城です。本日も宜しく申し上げます。
太田委員	こんにちは。太田です。この会議がスタートしたのは、危機管理の面でいろいろあってということで、その流れからなんですが、それでもやはり逆にそういう機会を活かしてこういう会議が持てるという事はとてもいいことかなと思います。ぜひ、大切にしながらやっていけたらと思います。宜しく申し上げます。
宮城委員	こんにちは。教育委員の宮城です。宜しく申し上げます。以上です。
教育長	教育長の座間味法子です。市長と、また教育委員の皆さんといろいろ話し合っって連携を深めることは、とても大事なことだと思います。

	<p>で今日の会議がより良いものになるようにと思っております。宜しくお願いします。</p>
稲嶺市長	<p>ありがとうございました。先ほども少しお話ししましたが、第1回の時は大綱、いわゆる屋台骨をみんなで話し合いしながら設定していくという事でした。今後は具体的に、それぞれの年度、今回ですと次の年度に向けてより具体的な内容の協議になろうかと思えます。</p> <p>具体的と言っても、事務局と調整する中で教育委員会が担う範囲というのが非常に広いので、細かい一つの事業とか実施計画一つ一つの中身まで議論すると厳しいですが、私としてはこういう会議ができたといっても、ほとんどのところは教育委員会にお任せする、現場では専門の皆さん達が頑張っていますし、委員会では委員で会議しながら具体的な事業等については計画もし、実施もしていくという事になります。また、事務局も教育長を中心に、事務処理を行っていますので、これからもその方向性で市政に活かしてほしいし、それを尊重していきたいと思えます。私が入るこの会議では、重要な、といいますが、その中でもお互いで確認をしていた方が良いというようなものに限るべきだと私は思っていますので、皆さんにもそのつもりで参加して頂ければありがたいと思えます</p> <p>それでは議題に移ります。今回は議題が1つあります。「教育を行うための諸条件の整備その他の教育、学術及び文化の振興を図るための重点的に講ずべき施策について」です。これも先ほど言いましたように、重点的に特にここは必要だということに絞っていききたいと思いますのでよろしくお願いします。それでは事務局の方から説明をお願いします</p>
事務局	説明
稲嶺市長	<p>今事務局から重点的に講ずべき施策についての説明がございました。これからご意見を伺いたいと思えますけど、私も就任して5年が過ぎました。その中で1番目に掲げたのが「子供たちの瞳が輝くまちづくり」ということで、子どもたちの教育環境の整備にかなり力を入れてまいりました。特に学校施設の空調設備であったり、耐震化であったり、これまでの計画を前倒しにして、集中的に資源、予算も人も含めて投入をしてきたところがございます。そのことによって、これまで課題として抱えていたものに十分に対応できていなかったというところもありますが、一定程度、環境整備が少し出来上がってきました。</p> <p>今後は、また市民の様々なニーズ・要求がございます。それらに対してしっかり対応していく施策というものを考えていかなくはと思っております。計画行政の中で、施策を実施していくためには、基本構想、基本計画があって、3年周期の実施計画があります。また、それを裏付けするための財政計画というのも、中期財政、長期財政があり、それらの中に重点的な施策をすべて組み込みながら計画的に進めていくことが必要です。今回重点的にこうするべきというものについても、実施計画の中に盛り込まれた、あるいはこれから盛り込んでい</p>

	<p>くものを含めて掲載されています。</p> <p>それではただいま事務局から説明があった重点的に講ずべき施策について委員の皆様からの意見を伺いたいと思います。</p>
照屋委員長	<p>学校施設が今新築、改築という事で、すごく学校の環境施設がよくなってきているというのが目に見えて評価するところじゃないかなと思います。それからクーラーの設置については特別教室などが残っているだけで、児童生徒の学習環境も整ってきている状態であります。</p> <p>先ほどもありましたように、子ども達の教育環境の整備を優先的に判断して頂いて、大変ありがたいなと思っております。こういったことを含めて、この総合教育会議というのは教育委員と市長との話し合いの中で、さらにまたそれが深まっていくところを期待しています。</p> <p>今日は重点的な施策の中でという事ですので、より良い学校環境の整備2のところの(3)の所で「緑風学園」「屋我地ひるぎ学園」の学校運営協議会制度というのがございます。これは思うところに、昨今、保護者、地域のつながりが少しPTAも含めて弱くなってきている。そのため、そういったつながりを強固にしていくためには、やはり、何かあればPTAも地域も、もろもろの企業の方でも結構ですが、学校に入っただいて、そしてそれがいわゆる運営組織ではなくて、責任のある協議会というのを成立させるのが大切だと思います。</p> <p>それから校長先生も校長室に座ってばかりいますと、教育方針に対していろいろと言われますので、その方針に沿って実施に向かって行けるんじゃないかと思えます。いわゆる地域の環境を踏まえた学校経営・風土づくりにもつながるのではないかと思います。このような関係は、緑風学園ではある程度、完全なものではないと思いますが、できていると聞いています。屋我地ひるぎ学園においても、緑風学園を参考に学校経営をなさるということですので期待をしています。しかし、またそこだけにとらわれずに各学校においても学校単位でやるのか、あるいは中学校校区でやるのかは、それぞれの学校区の特徴を踏まえて行う必要があると思えますので、そのあたりを市長としてのご意見を聞かせていただければなと思えます</p>
稲嶺市長	<p>最近、子育ては学校だけではなく地域の力、様々な人達の力の陰ながらと言われますが、地域開放ということで玄関ドアを開けて待っているからどうぞ自由に出入りください、というのは開放型とは言えないと思います。今おっしゃられたように校長が教育方針を学校の中だけではなく地域に対しても示す。そのことによって協力が得られる体制というのが作れるのではないかと、そうすることで今度は参加する側も第三者ではなく当事者として、責任を持った発言や行動ができていくのではないかと思います。</p> <p>これからの教育は、地域の子供は地域で守るという風に言われているとおり、いわゆる専門家集団だけではなくて、外部の様々な知識、技術を持った人達が大勢いますので、そういう人達を巻き込んで学校の運営に活かしていくというのも必要だと思います。われわれ行政への催促として、バックアップができるのであれば積極的に進めていき</p>

	<p>たい。たとえば青少年健全育成などは市長部局にも業務としてあるわけです。きちんと法律で位置づけられているため、教育委員会だけでの専権事項ではありませんので、それこそみんなと一緒に力を合わせていきましょう。</p>
太田委員	<p>先ほどの市長からありました専門的知識を持った方についてですが、そういう方の活用はとても必要かなと思います。スポーツに関してもそうですが、青少年の健全育成に関しても一生懸命やってきた人とかそういう知識を持った人達がリーダーになって、協力者が増えていくということができればもっと良くなると感じます。</p> <p>青少年の健全育成については、何十年も実績があり、補導員の皆さんや名護市内で五校のパトロールを中心とした組織など様々な組織が作られてきて、そういう専門性が出てきたところは安定してきているのかなと思いますので、ぜひその専門性を今後どのように活かすかというのが大きな課題かなと思います。また、どういった組織がどういった専門的知識を有しているかといった情報を多く持っていないといけないのかなと思います。</p>
稲嶺市長	<p>たとえば、経済だとか社会の生活の中で産・官・学とよく言われます。それは同じようにソフトの面での産・官・学これにプラス地域という市民という目線も入れていくことが重要だと思います。子供達が一人前の社会人となっていくためには周囲にいろんな人達がいるわけですよ。技術も知識も持った人達。あんな人になりたいとか、こんな人になりたいなどという身近にそういうのが見える世界というか環境づくりができるのもっと効果が出るんじゃないかだと思います。</p>
照屋委員長	<p>昨今、学校に対して批判ばかりであったものが、少しずつ協力してもらえるようになってきているところがあります。それは、やはり校長先生自身がリーダーシップを持って、地域や保護者にバックアップしてもらえる体制を作っていくことが必要だと思います。校長先生が、地域や保護者の声を聴いて方向性を決めることで、地域や保護者も批判ばかりではなく、責任を持って協力していこうという風潮ができていくのではないかと思います。</p> <p>できれば名護市にもこういった、特徴的な名護市の学校づくりがすべての学校で行えればいいと思います。これは最初から行政で、お金でやらせるのではなくて、まずは自分たちである程度実践して、どうしても足りない部分は行政に支援してもらおうという方向で進めていけばうまくいくんじゃないかと思います</p>
稲嶺市長	<p>その意見についてですが、4年か5年くらい前になりますが、夏休みに教育懇談会を各地域でやりますよね。姉妹都市である北海道から人事交流で赴任した社会教育課に配置されていた職員が、各地域の懇談会に担当として参加したのですが、その職員から「みんな要求ばかりやっている。相手に要求ばかりやっている」といった感想としか発言をしていました。「学校側は保護者に、保護者は学校あるいは地域に要求ばかりやっている。お互い要求ばかりやっている感じでした」という感想でした。先ほど言った責任ある形の参加というのであればそんなことにはならないと思う。お任せ主義みたいなものがあるか</p>

	<p>ら相手に要求ばかりしている。共通認識として協力しあってやる風土というか体質というか、そういうものから作っていかないといけない。</p>
大城委員長職務代行者	<p>緑風学園についてですが、6月か7月くらいに地元の区長さんとPTA代表と評議員の立ち上げが行われています。まずは自分達の地域で問題の解決や自分達の学校を盛り上げていければいいなという思いですが、やはりいろいろな問題が出てきたときに、専門の人や第三者の意見を聞かないと問題解決の糸口が見えないことも出てくるだろうという思いはあるんですね。その時に、助言をしていただき、より良い方向に行くのであれば、それはとてもありがたいことだと思います。</p> <p>ただそういった専門の人達をメンバーに組み入れてしまうと地元の人達が委縮してしまうというか、地元でしか共有できない問題もありますので、どういった形が良いのか分かりませんが、こちらが必要と思ったときに、アドバイスがもらえたりできるとか、そういった体制ができれば地元の組織としても良いのではないかと太田委員の意見を聞いて思いました。</p>
太田委員	<p>教育委員会の中に高校の校長先生を退職した人などいると、そういう知識が必要な時に、助言してもらえると、問題解決に向けた視点も違うと思うので、地元の皆さんの気持ちも前向きになれると思う。教育委員会の中にそういった人達がいて、何かあった時は呼べるというシステムがあればいいんですが、その人材の確保の問題がありますね。</p>
稲嶺市長	<p>そういう人達の人材バンクを作っておくとすぐ応えられるのではないかな。</p>
太田委員	<p>似たような話で、何年前かに全学校に電子黒板を導入したのですが、その効果がなかなか目に見えてこない。その活用について先生方や学校に任せているとなかなか進まない。パソコンをできる先生もいますが、ほとんど使わないという先生もいる中で、教育委員会の中に専門的な知識をもった担当を置く必要があると思います。指導主事ではなくても、そういった機器を動かす方法を教える人を配置する必要があると思う。教育研究所で研究してもらっても、研究を終えるまでに半年かかってしまう。</p> <p>今回、タブレットなどを導入するのであれば、専門性のある人材を配置して講習したりなど、様々な形で学校に入り込んでいく必要がある。指導主事が学校を訪問するのと同じように、せっかく導入する機械の使い方を、研修に来てもらうのではなく、学校へ出ていける人をつくって置いておかないといけないかなと思います。機械は動かさないと意味がないので、それを学校でしっかり活用していくためには、人材だと思うんです。</p> <p>それと去年でしたか、学習支援者を大勢配置するということだったのですが、人材不足で何校かは配置できませんでした。賃金の安さなどの問題があったようで、その後に改善してよくなってきてるので、やはり人材確保のためのそういった予算的なものも必要です。</p>
座間味教育長	<p>先ほど人材バンクのお話がありましたので、それと関連するお話ですが、緑風学園は今年から地域の区長さんたちの参加のもとに「学校</p>

	<p>運営審議会」を開催しています。昨年、兵庫県教育大学の日渡円教授が緑風学園を訪問された際に、学校の必要に応じて地域の人材を活用するだけでなく、地域の方々の意見を取り入れながら学校経営や運営を進めていくことが教育活動を充実させるうえで大切だとの助言をいただきました。</p> <p>そこで、平成27年度の名護市教育委員会の重点施策の一つに、「地域が学校を支援する体制づくり」を位置づけています。</p> <p>名護市の学校はPTA役員はじめ、地域の皆さんなどが、学校行事や朝の読み聞かせ、交通安全指導などに協力する体制が整っており、ことさらコミュニティスクールと言わなくて、地域の方が学校を支援する良い雰囲気があります。</p> <p>名護市教育委員会としても、平成20年度に「学校・家庭・地域本部事業」を平成21年度に「学校評議員制」の取入れを、さらに「学校評価」の実施・公表などを導入しており、これらに地域の意見を聴取する「学校運営審議会」を加えることにより、PTAや地域とより密着した学校運営が可能になると考え、教育活動の充実につなげたい考えです。</p> <p>平成28年度から緑風学園と屋我地ひるぎ学園の小中一貫教育校にモデル的に導入し順次、名護市立の全中学校区に導入していく予定です。</p>
稲嶺市長	他に意見があれば。
大城委員長職務代行	<p>名護市が学力を沖縄県で一番になろうと一致団結しているいろんな支援を行っているところで、学校現場でも放課後の時間なりボランティアを活用したりして、学習支援が進んでいると思いますが、まだまだ足りない面はあると思います。地域家庭の教育力の再生というところと結び付けて、今あと何年後かの沖縄1位を目指すところは大変大きい目標だと思うんですけど、これを継続するために地域と家庭に目を向けたとき、今やはり問題になっている子供の貧困があります。その問題があると学校や幼稚園だけが頑張っても学力が向上するのはとても難しいと思います。</p> <p>この総合教育会議、市長と教育委員との意見を言える場ですので、貧困問題についても市役所の中の横のつながりを利用して、どうにかいい方向にできるような施策や糸口がつかめないかと思います。その問題を解決することで、家庭が落ち着き、子供が落ち着き、少しずつ子供達が勉強に集中できる環境が作れていくのではないかという思いがあります。本問題に対して市長も考えいらっしゃると思いますし、すぐに解決ということは難しいですが、そういった取組も必要だと思いますがいかがでしょうか。</p>
稲嶺市長	<p>ご指摘の通り学力沖縄1位を目指すなら学校で補助授業をやればいいという話でもないだろうと思います。学力向上推進施策パッケージ事業というのがありますよね。今、大城委員が言っている話はパッケージ事業に組み込まれています。パッケージ事業というのはですね、部長会で教育委員会の方からプレゼンテーションをしてもらったものです。他の部署から出された事業というものは単発というか一つの事</p>

	<p>業に絞られてるというか、それだけを提案しているというのが多いんですが、パッケージ事業というのはその目的を達成するためにはいろいろな要因があるわけだから、一つ一つの要因に対して具体的な施策を展開していくというのがパッケージ事業なんです。それが家庭教育の話も含めてそこまで入っています。</p>
荻堂課長	<p>確か、社会福祉課の方で何人か嘱託員を雇って生活保護に陥らないようにする為の施策という事で、庁舎横断的にやっています。私どもの方ではその嘱託職員から学校給食費関係の相談を受けたりしています。そういったいろんな部署と連携しているという話は伺っています。</p>
中本次長	<p>こども家庭部長と私の方で子育て支援というところでは、教育委員会とこども家庭部で意見交換しながら窓口的なものが必要ではないかとかそういう話し合いはしているところです</p>
稲嶺市長	<p>子育て支援のところ認定こども園とか新しい制度とかいろいろ出てくる中で教育委員会それから市長部局では壁が、いわゆる縦割りというか、できなかった部分があると思います。それらを取っ払って連携ができる関係を作っていくかといけないと思います。今話にありましたように、それぞれに相互乗り入れができるような関係になりつつあります。</p>
座間味教育長	<p>今、貧困問題がとっても社会問題になっていて大事な問題なんですが、学力向上推進にかかるものについてお話しします。5年前に学力を沖縄県1位まで引き上げるという壮大な目標を市の総合計画を策定する際の市民懇話会の中で立てられたわけですが、正直言ってこの目標を達成できるかどうか大変なこと。ただ目標は大きく掲げて、順位や平均ではなくて、順位ももちろん1番を目指すとか平均も全国並みにあげるといふ事もあるんですが、何よりも大事ことは一人ひとりがどの位置にいるのかという事ですね。例えば学力が低位の子たちがどの部分に多くて、上位がどのくらいいて、中の子はどれくらいいるか。これをしっかり分析しなければ、みんないっしょくたに同じ方法では駄目なんです。基礎基本のある程度ある子だったら、ドリル問題やらせるとか教材あげてもできますが、かなりの差が開いてる子にとっては一人では難しいです。そこには支援員が必要だし適切な教材も必要です。そういう低位の、正答率30パーセント以下の子どもを少なくするというのが、小学校が全国平均に近づいた大きな一つの要因だと言われています。ここが私は大事だと思っています。能力はあるけど何らかの条件でドロップアウトする子がいます。その一つが貧困の問題なんです。そのため、「沖縄県子どもの貧困対策に関する検討会」の中で委員の方も、小学校の基礎基本をしっかりと身に付けさせることは貧困問題を解決するうえでも大切だとおっしゃっています。私もその通りだと思います。</p> <p>この点でも緑風学園は非常に成果を上げていると思います。つまり勉強に遅れがちな子供に、丁寧に指導しているというのはこの4年間で見えてますので、今後も大切にしてほしい取り組みです。緑風学園の特色ある3本柱にも基礎基本がまずあります。それから地域の特色</p>

	<p>を活かした体験活動、そして1年生からの英語教育。中でも一番大事なのは基礎基本ですよと言っています。低学力の子供をそのままにしてドロップアウトさせないために、学校がしっかり取り組まないといけないと思います。順位や平均だけでなく、一人ひとりの子供たちを細かく見て適切な指導をして行くことが大事だと思います。</p>
稲嶺市長	<p>貧困問題というのは根本的に考えないといけないと思いますね。育児放棄をされているとか、いろいろなものまで掘り下げてくるという事になると思いますから。</p>
稲嶺市長	<p>教育・子育て支援の話で1時間過ぎてしまいましたが、大きな2番目には文化スポーツ活動の推進とありますがそこに話を移しましょうか。</p>
太田委員	<p>地域・家庭の教育力の再生というのが文化スポーツ活動の推進の中に入ってきているのですが、その中でさきほど話に出ていた学校家庭地域連携事業ということで、コーディネーターを置いてやる事業が平成21年でしたかね、実施してまして、初めの頃は国、県、市が予算を持ち寄って3者でやっていたのが、だんだんと国が出さない県が出さないということで、今名護市単独でやっていると思います。しかし、本事業はとても良い方向に動いているとも聞いていて、コーディネーターがいるおかげで学校がいろんな形で動き出しているという事も聞いています。やはりこういった事業は続けていったほうが良いなと思います。</p> <p>先ほど話のあった夏休みの地域懇談会もコーディネーターが入ると、発表だとかお互いの要望だけではなくて、保護者を複数のグループに分けて子供たちの課題をお互いに話をさせるワークショップ形式をしていました。私の入ったグループには、若いお母さんが2人いて、子供の食事とか教育の面で仕事が忙しいので夜はあんまりご飯を作れないという意見がありました。夕飯はサンドイッチとかですませて、朝食をすごい豪華にするらしいんですよ。こういう方法もあるんだなと。そういういろいろな話が聞けた、そういうのもコーディネーターがいるおかげでできることだなと思いました。</p> <p>また、名護中学校でも朝、「語れ一会」というものがあって、20学級ぐらいあるのら、十数人が教室に入って話しをするんですが、それも生徒が刺激を受けるんですよ。区長さんやら市議の皆さんやらいろいろな方が入ってきて、いろいろな話をして市長の息子さんも関わっていますが、そういった人達が来るという事は生徒もそうなんですけど、先生方も緊張しているんですね。学校を開放するという事は、どんどん学校が変わっていく感じがするので、ぜひ学校家庭地域連携事業は続けてほしい。</p> <p>良い取組があれば、各学校も真似をしながら広がってきていると聞いています。予算もそんなにかからないので、これまで以上にグレードアップしていくことを期待しています。</p>
稲嶺市長	<p>いろんな生き方とかいろいろな人が関わることで、子供達の見方も感性も育っていく。普通のおじさんおばさんだと思っていたら、意外とこんなすごいものを持っていたんだと子どもたちにとって新し</p>

	い発見みたいなのあるかもしれない。
太田委員	ある人が、聖火の時のビデオを見せて、何十年前のことから、いろいろと話をするんですが、僕らが聞いても面白いですから子供たちはもっとおもしろいのかなと思います。
稲嶺市長	大切なことですね。
宮城委員	<p>今、太田委員からあった話とはちょっとまた違いますが、2枚目の文化・スポーツ活動の推進の2番目のスポーツ・レクリエーション活動の充実というところで意見も含めて市長の話を聞きたいなと思います。スポーツ活動を充実させるというところで市民のニーズを把握しより良いスポーツ環境の整備に取り組みます。というところがあります。今、私の感じているところでは、名護市においてスポーツの施設の整備についてはちょっと出遅れているんじゃないかということはこの何年か感じています。確かに平成28年度には真喜屋運動場の整備に取り組みれるということで、素晴らしいことだと思いますが、それ以外の関係で、議会でも質問が出ていると思いますが、武道場の建設の問題があります。名護市は北部地域の中心でもありますし、スポーツコンベンションなどを推進していく上では、施設の問題があるのではないのかという感じを受けています。</p> <p>以前、総合運動公園構想がありましたが、今現在はストップしているという状態であります。市としてその構想に取り組んでいくことはできないのかという感じをすごく受けています。現在、名桜大学さんがあって、県外出身の名桜大学生がスポーツ関係で名護市に貢献していますが、卒業すると県外に帰っていく人達も結構多いようです。総合運動公園があれば、そこで働く場も増えますし、そういった生徒が残ることで名護市の競技力の向上も図られると思うのですが。</p>
稲嶺市長	<p>施設の面でいうと老朽化してきて、市民の要求というか、希望が非常に強くなってきている状況であると思います。総合運動公園計画はみなさんも関わってきたと思いますが、埋め立てをするというのが前提で作られたものです。本計画が策定されたその年の12月の議会で、埋め立てはまかりならんということで、できなくなってしまったため、埋め立てを前提とした計画は進められなくなっています。ただし、その計画の中では集中型と分散型というものが検討されており、集中型は埋め立て、分散型というのは1箇所に全部集めるのではなく、それぞれの地域に配置するということを含めて考える必要があるのではないのかという案と2案に分かれています。埋め立てができなくなり、21世紀の森公園の整備計画の変更というのも難しい。私が就任して建設部に、例えば、陸上競技場を公園に移設して、公園をどこかに移設することはできないかと聞きましたが、それはできないという話でした。</p> <p>そういうことがあり、一昨年に公園の長寿命化計画というものを策定しており、今あるものを、老朽化もしているため、機能の強化や拡充をしていこうということを進めています。その初めとして野球場の改築があり、来年度から具体的に着手できるという段階にきています。</p> <p>あと、例えば陸上競技場については、駐車場の問題などあるのですが、21世紀の公園に移設するのは無理であり、移設の場合は、二種の</p>

	<p>競技場にするのであれば、サブグラウンドと駐車場で、現在の3倍の面積が必要と聞いています。埋め立てができないということもあり、また、名護市内はほとんどが農振地域に確保されている状況で、それだけの面積を確保することの問題を抱えているところです。また、二種ではなく、三種にして規模を縮小する方法なども検討をしてもらっています。</p> <p>また、武道館については、これも教育委員会と話し合いをしながら検討しているところです。いわゆる単独型とするには無理がある。6万市民の規模で、例えば柔道や剣道や空手であったり、どれだけの競技人口がいて、どれだけ使用頻度があるのかというものを念頭にしながら考えなければいけません。例えば、児童センターなども単独型ではなく、併設型にして考えるとか、調査してもらっているところです。武道館については、県内の事例でどれだけの規模でどれだけ活用されているかといったことを調べてもらっています。</p> <p>もう1つ、これは他の財産なので問題はありますが、例えば県立の高校であったり武道場が設置されていますよね。それがどの程度利用されているのか、例えば、有料でもいいから借りて、市民の子ども達に使わせてもらえないかという話ができないか。</p> <p>真喜屋運動広場については、たまたま海側に新しくできた土地ができたので、その整備計画というのが作られて来年具体的に着手できるという運びになっています。宮城委員のおっしゃられる施設の整備の面かというと、後れを取っているのは現実です。野球場を改築するのに30億円近くかかる。陸上競技場もそれぐらいかかります。そういった中で大変苦労している状況です。ただし、使用できないという状況は避けなければいけないということで、2年前に一括交付金で陸上競技場の一部改修は行ったところです。</p>
宮城委員	<p>そういう苦しい中ではあるんですけども、やはり夢を大きくというんですかね、施設についてもできるだけ沖縄県内で誇れるようなものを目指していただきたい。将来的には北部の中心、沖縄の中心としたスポーツ施設が名護市にはあるぞと。そう言えるような夢をもっておりますので、ぜひ宜しくお願いします。</p>
太田委員	<p>先ほど学校の施設とかいうのも話が出たんですけど、私達が話しているのは小中学校だけの話が多くて、高校とか大学が含まれてこない。これは管轄の問題もあるのですが、名護市は学園都市という形を打ち出していて、そこに高校も大学も入れて施設をお互い共有できるような形のものが出来ないか。学力の面でもそうですけど、文武のことで結局、中学校まで剣道部、空手部あっても名護高校に剣道部、空手部がないからできない状況になっている。この辺も含めて学園都市という形でつないでいくというものも高校も含めた形でお願いできたらと思います。</p> <p>ただ、高校の体育館を借りるのは簡単ではないです。確か、七時半になったら全部電気消してしまいますので。私達でさえ、活動していても電気を消します。ブレーカーを落とすんですね。だからそういうものをクリアしていくにはやっぱり市と県としっかり協議して、学園構</p>

	想の中で連携を取っていく必要があります。
稲嶺市長	<p>地域に開放するという事は、これは子供たちの教育のためにやっているわけだから、目的外の使用ということになるわけですね。目的外の使用だから使用料を払っても私はいいと思うんですよ。行政として整備すべきことができてないのであれば、その使用料については行政が負担して、いろいろな団体が使ってくださいと。100%行政ではなくて、それぞれの利用者負担というものもある程度出てきますが、貸し借りについては行政がきちんと入って、責任を明確にしなければ、貸す側としても難しいと思います。</p>
宮城委員	<p>市長、これはできます。というのは県としてもですね、私も高校教員時代、学校開放を長らく関わってきました。ただしかし、それを管理する人はどうするのかという問題が学校現場にあるわけです。その係を私は6年ぐらい学校開放の関係で県の試験を受けて担当していました。名護高校のグラウンドを週に1回とか2回とか子供達が帰った後の7時以降から9時までとか借りられる、使用するには手続きさえ踏めばすぐできます。</p> <p>学校施設の開放事業は、県も進めているんです。学校開放事業の総会も年1回あり、そこで発表などもあって、私もお願いされて、宜野湾市で発表をしたこともあるんです。ですが一番問題なのは、開放していただく学校にそれを世話してくれる職員がいるかどうかなんですね。その職員をとおして開放するわけですので。</p>
稲嶺市長	<p>そうであれば、担当する人のその間の手当をを負担するとか、そういうことは可能かもしれない。何億何十億という施設をすぐに建設することができないなら、その間、武道をしている人達に対して手当をするということはやらなければいけないなと思いますね。</p>
照屋委員長	<p>少し気になるのが、子供達がスポーツ離れしているということです。サッカーなど、J1が賑やかになっていて、競技人口が増えているかと思うとそうでもない。市内の野球も毎年1チームずつ減ってきてどんどん無くなっている。しかし、そこまで子ども達が減ってるというわけではなく、スポーツに魅力が薄れてきたのか、あるいは、そういう面倒なことを避けるようになってきたのか、貧困という問題ではないなという感じがします。</p> <p>そういった中で、まずは指導者の育成が重要だと思います。野球が今年の11月に講習会を宜野座村で初めてやってそれを継続していこうとしています。指導者との関わりの中で、子どもにスポーツをさせたくないとか、いろいろとトラブルがあったりなどの話を私も聞いています。それだけが要因とは思いませんが、指導者を育成することで、子ども達がよりスポーツを好きになるということができないかと考えています。また、先ほどから話もあるとおり、施設の関係もありますので、そのあたりも整備していかないと、少しずつ弱体化していくのではないかと気にしているところがあります。</p>
稲嶺市長	<p>バスケットとかバレーとかサッカーとかのチームも減っていると聞きます。</p>
太田委員	<p>子供がやらないのではなくて、連れて行ったりするのが大変だとい</p>

	<p>う事で、親がさせないということもあります。また、野球はお金がかかります。親が時間を取られるのが嫌だからという親もいるんです。一人っ子などは、団体競技に入れてやっていかないと大変ではないかと思ったりするんですが。なかなかそういう流れにはいかない。この辺は学力向上と一緒にいろんなことを仕掛けていかないと難しいかなと思います。</p> <p>それと小さい時からあまり動いていない。動いてる子と動いてない子がとっても差があるんですよ。特にクーラーなど入ったら遊ぶことも少なくなるんじゃないかなと心配しています。クーラーが入った涼しい所から出なくなる。これが案外大きいかなと思います。例えば、昼休みになったらクーラーを全部消して外に出すことも大事ではないか。後はお家に帰ってからのゲームですね。</p>
<p>稲嶺市長</p>	<p>子供達は活発に動いたり、笑ったり、泣いたりそういうのがなくなると寂しいものです。子供達がいつも元気で動ける環境を親達があるいは大人が準備しないといけないですね。</p> <p>では、重点的に講ずる施策ということで、子育て支援と文化スポーツ活動の推進というところでの内容について話し合いましたが、話は細かいところまで出ましたが、その施策の下にもそれぞれいくつもたくさん事業がぶら下がっているんですね。これについては教育委員会の会議の中でも示されると思いますが、いずれにしても20年30年先のことを考えて今を大人が手当をしていかないといけない。では今何をすべきかという事を、お互い行政に関わるものとしてしっかりと認識をしながら、これからも教育委員会と共同歩調で進めていきたいという風に思いますので、これからも忌憚のない意見をいただいて子供たちの為にとという事でお互い頑張っていきましょう。 一終了一</p>